

掛川市図書館協議会議事録

会議名	平成29年度第4回図書館協議会				
場所	掛川市立大東図書館 体験工房				
開催日時	平成30年2月15日(木) 午後1時30分から午後4時				
出席者	会長 代理 委員長 委員 委員 委員 委員	長 理 員 員 員 員 員 員	鴻野元希 福住久美子 鈴木由加里 増田美穂子 戸塚ひろみ 岡田昇 田中克美	副館長 館長 幹事 中央図書館係長 大須賀図書館係長	奥野寿夫 鳥居久美子 栗原信雪 富田正昭 澤島由基乃

1 協議事項

- (1) 図書館の基本的運営方針について
- (2) 掛川市立図書館協議会委員の公募について

2 第3回以降の協議会経過報告

- (1) 第2回協議会（平成29年9月20日・大須賀図書館）
- (2) 第25回静岡県図書館大会（平成29年11月6日・静岡市「グランシップ」）
- (3) 掛川教育の日（平成29年11月18日・掛川市文化会館シオーネ）
- (4) 第3回協議会（先進地視察：平成29年11月14日・愛知県豊橋市、田原市）
- (5) 市民ワークショップ（平成30年1月28日・全体28人）

3 報告事項

- (1) かけがわ図書館フェスティバル2017開催状況
- (2) 図書館関連事業・報道等（平成29年10月以降）
- (3) 掛川市立図書館利用状況（平成29年12月末まで）
- (4) 行政改革審議会
- (5) 平成30年度図書館カレンダー

1 開会

2 会長あいさつ

3 館長あいさつ

4 協議事項

- (1) 図書館の基本的運営方針について

事務局より資料にて説明があった。

2 現状と課題について

会 長：中学生がなりたい職業のベスト3が発表された。3位がYouTuber、2位がゲームクリエイター、1位がIT関連、昔はプロ野球の選手やサッカーの選手、あるいはドクター、飛行士であった。

私の感覚ではYouTuberが定着してると思えないが、そこまで時代が進んでしまっている。

委 員：結局、収入が得られるからである。投稿することで広告主がついて、金儲けができるからである。

会 長：子どもたちのつきたい職業がそのような職業といったときに、たとえばIT関係のものとか、あるいはIOTのような新しいもの、インターネットと結びつけるよ

うな考え方をしなくてはならない。
やはり、現在のインターネット化・IT化や情報のデジタル化の波にどのように乗っていくのか、あるいは拒むという方法もある。
金になるから憧れる。現実はそのことでしょうか。
課題としては読書離れが進んでいくのは、YouTubeを見る時間が多くなったからなのか。

- 委員：インターネットで検索すると、辞書を開かなくても情報を得られる。
- 会長：携帯端末、インターネットの普及の生活環境というものを図書館として真摯に捉えていくことも必要である。かといってWi-Fiをいれるのもどうか。
- 館長：昨日、館長会議があり。16市の館長が集まりWi-Fi環境を確認した。16市のうち11市がWi-Fiを導入している状況である。磐田市も30年度から実施することとなっている。西部地区は、御前崎市・菊川市・袋井市も実施している。掛川は、要望がなかった。
- 会長：市役所の中はフリーか。
- 館長：その通りです。
IT政策課と話をし、図書館はそこまでの必要性はないということで、いったん話は止めた。
他市の館長と話したが、情報というのは本だけではなく、デジタルとアナログのハイブリッドと言うが、図書館なので本で調べると同時にインターネットに自由に接続できる環境をつくって、両方から情報を得ることが大事である。
現状のWi-Fiの環境が繋がりにくいという意見もある。どれほど効果を上げているか疑問である。
- 会長：図書館でWi-Fiを繋いでほしいという気もしするが、それはあくまで読書活動と関係ないところの話で、便利だとか都合がいいとかの話である。
そして、3番目のミッションですが、必要な知識と情報を得るために、デジタルとアナログの共存の速度がはやい。
- 委員：YouTubeを利用してる子はかなりいます。読書はイメージする良さがすごく大きくて、今求められている学力は、例えば、算数の文章でそのものをイメージできないと回答には至らないことがある。
本校では、読書に親しんでいるかのアンケートを毎年取っている。今までは、他校に比べ低かったが今年は上がった。地道な努力は大事で、中学校と連携してノーメディアウイークを設けたり、朝読書をやったり、図書室に行くように決めたのがよかった。
読書に慣れ親しむのが大事なので、子どもたちにも両方使える人になってもらいたい。
- 会長：その子たちが大東図書館の入館者にもなってくる。子ども読書活動推進会議で、掛川の国語のB問題が高得点になっている。ものを考えたりする力がついたと言うことなので、特に学校司書を置いて読書を推進している成果が上がったということである。
そういう点では、上手に使い分ける。情報を見る力はデジタルでいいが、情報を使って考える力はアナログの力でないと難しい。
- 会長代理：県で子ども読書推進のパブコメを実施したが1件もなくて、読書県静岡と言っているのに、なんで1件もなかったのか。
子どもが手にとって読む感覚とか、この前教育の日にありましたがPepper君だけがいいわけではない。
- 会長：図書館の役割は、これからの21世紀を生きていくための考える力には、図書館がしっかりと役割を果たしていかないといけない。
アナログのとらえ方とか、読書活動などを実施していかなければならない。
別に経費が安ければWi-Fiをいれてもいいと思う。
- 館長：以前はかなりかかると聞いていた。

図書館では、パソコンを持ち込めるようにコンセントを用意している。
本を読みながら、パソコンで調べられることが求められるのかと考える。

- 会 長：高校生や中学生の課題を解くときに、すぐスマホをみて解くからすごくはやく、特に文化系のものは速答えが出るので、とても便利になっている。
- 委 員：中学生とか高校生を見ていると、地域のこととか、何県とか、世界などの、場所がわからない。
国の中でも、そこがどの辺りか全く分からないことがあり、教えていてすごく感じる。
- 会 長：私たちは、体験を通してどこにいるのか、それが少しずつ出来なくなっているのはたしかである。不器用な子たちは、理解出来るが想像が出来ない。それが、圧倒的である。
- 委 員：車を運転するにも、パニックになってしまう。
- 会 長：読書は想像力を養うものだから、理解力よりは物語というのは想像しないと面白くない。そういう点においてもすごく大事で、それを後押ししてくれるということをする、情報提供ということもそうだが、読書の素晴らしさということも、図書館を目指すものの一つになる。
- 館 長：ミッションを補足いたしますが、現在、早稲田の教授になったカタヤマヨシヒロさんの本に、図書館のミッションというのは、「暇な人に本を貸してあげるのが本来のミッションではなく、いろいろ課題を抱える人の知的な自立を支えるのが図書館である。」と言っていたので、今の話に繋がると思うが、社会人としては自立した市民。
佐賀県の伊万里の図書館も注目されているが、伊万里の市民図書館は条例の中に、「全ての人の成長、自立、自律、自己実現を支える教育施設である。」そのようなものをひとつ頭に置いて、仕事をしていかなくてはいけない。
- 委 員：私もワークショップの時に、同じグループの方のお子さんが登校拒否で、その関係の本を図書館に行ってみてすごく為になったので、周りの人にも知らせたいし、いじめる方にもと思った。このような方がワークショップに来てくれていたので、それを広めていくことかもしれない。
- 会 長：図書館のミッションでワークショップを計画するということもなかったので、それはひとつの使命・役割として、このようにこの項目をつけたのは、協議委員会として承認できるし、ぜひ図書館の使命としてやっていただきたい。
施策の方向性の中に読書活動の推進があるが、読書活動をどのように推進したらいいかということである。
- 委 員：母親が読書が好きだと子どももわりと好きである。親が好きな本は子どもも好きになるし、学校だと担任の先生である。そのように身近な人の影響を受けてどんどん本に向いていくと思う。記載してある妊娠期から幼児向けのよみかせの活動を行っているようだが、妊娠期の母親にどのように情報提供しているのか。
- 事務局：お子さんがいる状態でよみかせをするのはイメージしやすいが、まだお腹にいるうちから始めましょうということで、お話しをさせていただいている。
- 委 員：健診の時に、産婦人科にチラシを貼っているのか。
- 事務局：健診の時には、こんにちは絵本をやっている。健診とは別にパママセミナーを行い栄養のことや健康のことなどのコースがあるが、その中に絵本を入れていただいている。新米のパパさんママさんになる方に来ていただいて、よみかせは出来るだけ聞いていただきながら、子どもが生まれる前から初めていただき、効果を実感していただけると取り入れていただきやすい。実際に大人になるとあまり読んでもらう機会がないので、読み聞かせをしたり、子守歌を歌ってみたりするとお腹の中の赤ちゃんが動くそうです。そこから、赤ちゃんが喜んでいと感じて、私もよみかせをやってみますという方向に繋がっていく。

- 委員：結局、来てくれる方は意識が高い方で、問題は全く意識がない方や余り興味が無い人たちが、どのようにしたら本を子どもに読むような母親になってくれるか。それにより、学校も大変な子どもが少しでも減っていくと思う。やはり、親子関係でずいぶん変わってくると思うので、産婦人科であれば誰でも行くから、待っているのではなく、誰でも行くようなところでできないか。
- 会長：掛川市のほんわかプランというのは、現状で特に妊娠期の方へのサービスが行われている。それから健診時にサービスが行われているので、その成果がいずれ出てくると期待している。
4月当初が子ども読書週間で、学校としては大変な時期で、そこに図書館として支援が出来ればいいとおもうが、盛り上がりがなく中学校や高校は絶望的である。だいたい子ども読書週間というのがあったとか。そこは図書館の協力により出来ればと思う。
- 館長：図書館としてもこの時期は大変厳しい。学校の方もPTAの会議などがあり大変だと思う。
- 委員：意識の高い学校もあるが、毎年のことになっているということもある。
- 会長：次に4ページ(3)(4)(5)になるが、ここはそのとおりである。高齢者へのサービスということで、大活字本と録音資料です。高齢者の方はサービスしなくても、暖かいとか涼しいとか中央館はいつも来るメンバーは10人くらい決まっている。
今後、このような人々を家から出して図書館に来て何かをするというようにしなければいいと考える。
- 委員：公民館で高齢者の方が活動する日にBMに行ったらどうかと、ワークショップの時に話が出た。
- 会長：生涯学習センターが出来るときに、センターに本を置いて図書館の分館にすればという話も出た。
- 会長代理：地域の福祉の役をやっている関係で、高齢者サロンに毎週のように行くが、あるおばあさんが2週間ごとに5冊くらい借りるようだが、押し車で来ると、職員が用意してくれている。
高齢者の中でも本を借りる話が出て、大東は本屋がなくなった。若い人はメルカリで本を買って、読んだらすぐ売ってしまう。この前美容院に行った時に図書館に行きますかと聞いたときに、やはりメルカリで購入してすぐに売ってしまう。「図書館がなくなっても困らない。」といていた。
- 委員：メルカリで本を買って、すぐ売ってしまう。便利になりすぎている。
- 会長：特にレファレンス、福BOOKろなど後期高齢者用もあった方がいいのでは、館の入口のところは子供向け、中央はいろんなテーマで決まっているが、思い切って高齢シリーズでやってもいいと思う。
問題は、足がなく図書館に行けないわけだから、BMを増やす。
- 委員：父が退職してから、家にいるので私が図書館に行って借りてきてあげる。また2週間したら借りてきてあげていた。自分で行くのがめんどくさく、しかし、何かの集まりがあるときに本を持ってきていただければ、行ったのかと思う。
- 会長：市内のフリーバスをたくさん運行して、図書館行きバスに乗って帰ってこれる。BMよりはいいと思うが、やはりBMで近くのセンターに来ていただくのがいい。
- 委員：ワークショップの中にもあるが、読む本を教えてもらいたいという意見があった。児童サービスとしてもすごくやってもらいたい。いろんな方から話を聞くと司書の方から、次はこの本がいいと教えてくれたから、私は読んだという方がいる。
だから、児童サービスでもやってほしいし、大人でもそのように思っている人がいるということですから、そのサービスをすれば大勢の方に来ていただけるし、貸出も増えるんじゃないかなと思う。そのような地道なことが大事である。
もうひとつ児童サービスの中でよみきかせをしていることがなくて、図書館の方

が子ども達によみきかせをしてもらいたい。そのように、あそこに行けば本を読んでくれてということを見習ってやってもらいたいと思っている。

会 長：これからレファレンスサービス・読書推進サービスの中で、特に司書やあるいは、図書館職員の方々が、定期的にその場所を使ってよみきかせを行うことが出来るような人員配置をしてほしいということになってしまう。何が大事かということである。そこにお金をかけないとしょうがない。現状としては、行政改革という言葉では人を減らすことが改革になっているという話になってきてしまう。

図書館は人を増やすことが行政改革なんだと館長からも強く言ってもらいたい。図書館としても場所もあるシステムもあるので、そのようなよみきかせも必要で、しかし人もお金もかかる。先ほど話があった読書相談コーナーがあって、そこに行けば何の本を読んだらいいのか、そのような相談室があって対応が出来れば、素晴らしいと思う。これをすぐやるためにはどうしたらいいのか、図書館友の会を作るしかない。そしてボランティアを集めるしかない。

最終的にはそのようなレベルになってくる。もちろん市に要求はするけれど市民独自で活動していかないと、たぶん要求するだけではなかなか無理である。

次に3館の役割であるが、なんとなく中央館と大東館のすみ分けがあるが、大須賀館は何があるのかということだが、袋井寄りの方はこちらを向いていない。

委 員：大須賀図書館に初めて行った子ども達は、大喜びしています。ターゲットにもよるし、地域にはなくてはならない存在である。

講演会やイベントに行ったときに、講演をされている方の本があったりすると思わず購入してしまうとか、例えば、環境であれば環境のジャンルの本を置いてあって、読んでみようかと。そのイベントに関連性のある出前図書室的なことをやることによって、推進に繋がればと考える。やはり、関心がある方が行くので読もうかなということにもなる。関心がない人にどのように気持ちを盛り上げるかということもある。

会 長：せっかく著名な方が来るので、その著作とかその方が研究しているジャンルの本を入口に並べて貸出をするということ。なかなか難しい面があると思うが、例えば生涯学習センターで講演があった場合、入口に関連の本が並んでいるとか、そうするとそこで、貸し出すことが出来ればと思うが、これは図書館が大変である。

委 員：講演者だけの本を置くのは問題があるかもしれないので、同じジャンルを置くことはどうか。

館 長：柳田さんが来たときは、関連の本の一覧表を作成したことがある。

委 員：講演会の時は、図書館の方がリストを作ってくれた。

会 長：図書館を盛り上げていくアイデアが必要。

事務局：図書館の中でも、昨年お茶と文学者という講義があり、夏目漱石とお茶、森鷗外とお茶など、そういった講義があったときは、本を並べて自由に借りられるような企画も行った。

会 長：このような講演が、図書館の中で開催されれば並べられるが、例えば、どこかのセンターでやった場合、100冊くらいを持って行って、そこで図書館の職員がカードを持っている方には貸し出すことが出来るが、カードがない方には誰かが責任を持って集団貸出にしておいて、必ず返していただく。それは出来ないことはないと思う。

ただし本が紛失することが出てくる。

会長代理：デジタルアーカイブ化は是非やっていただきたい。このまえ浜松の図書館がホームページの市民ニュースの中で、50年前からの映像が10分くらい見られる。例えば、駅南の交差点がつながりましたなど、ほかにデパートが出来ましたなどのニュースがある。それを図書館でDVDにおこしてホームページを見られない人は、図書館で見られるように、一般的なDVDは個人使用しかできないので、浜松の場合は、市の図書館の資料にした。例えば、構造改善であったり、ライセンサーが出来たりなど画像で見せてあげられるといい。

- 委員：小学校の社会ですごく助かります。
- 会長：郷土資料のデジタル化というのは、進めていくという方向であるが、これも予算がかかる話で、浜松は専門の職員が手作業でスキャンして、デジタル化している。そのような専門の職員がいないと、なかなかデジタル化が難しい。是非それも予算化して、進めたらどうかと思う。
- 委員：各図書館ごとにホームページをつくって、その中に司書の方が地域の歴史資料を積み重ねていければいい。やっぱりこれも予算の問題がある。
家庭などでも昔の資料を持っているはずなのであるが、昔の子ども達が使っていた本なども捨てられている。家庭でいらなくなった資料なども図書館で受け入れていただき、本を収集し、地域の大切な本なども図書館で収集することをやっていただきたい。私などは郷土の資料を集めているのですが、地元にないので東京の国会図書館に行っている。今後、デジタル化もそうだが郷土資料を収集することもやっていかないと、少し危機感を感じている。
- 会長：デジタル化も予算化して進めてほしい。やはり専門の職員をつけていただけるといいが難しいでしょう。デジタル化専用職員とスキャナーがあれば結構なことが出来そうである。
- 委員：教育委員会の文化財担当と協力すればと考える。
- 会長：今の図書館の問題と郷土資料の保存・収集の問題については少し違う、例えば、図書館が収集したり保存したりデジタル化したりする作業を現在の図書館でやることは困難である。浜松市や磐田市でやっているのは、今の図書館内にある資料をデジタル化するという作業だと思う。もし、各家にあるようなものを収集して選別して掛川市の文化財あるいは市史編纂でないと無理ではないか。

(2) 協議会委員の公募について

事務局より資料にて説明があった。

- 委員：この要領では、どの時期に会議に参加するかなどが分からない。
- 館長：公募要領は公募の手段ですので、広報に載せる際には年何回程度の会議と謝礼のお支払いについて掲載していく。
- 会長：これは運用要領だから、ここで決めておいて具体的には別に決めていく。募集要項には、年間4回の会議とかあるいは視察とかが含まれることを明記される。
一番大きなことは、文科省の基準を参酌して定めることなので、いいところを取り込んで決めるということなので、必ずしも公募しなくてもいいが、公募した方がよりよい、なぜならば市民協働のまちづくりであるためである。率先して私がやりたいという市民の力を使うということである。特に図書館については、興味関心を持っている方がいる。ワークショップの時も関係団体以外の方で、応募していただいた方が私のグループにもいた。そのような方々も図書館についての思いも持っていた。
協議会委員というのは、掛川市全体の図書館の運営に関して業務を行う。要領が8条までであるが、これは条例化しないということだが、とりあえず公募するということはいかがか。

委員全員：賛同を得る。

- 館長：過去に遡ると中央図書館を建設するときに、公募をして検討委員を募り、その時に大学生が入ったことがあった。
- 会長：若い方々の図書館に対する意見を聞く。たぶん聞かなければ応えないと思うので、そのような機会があったらいいのではないか。

5 第2回以降の協議会経過報告

- (1) 第2回協議会(平成29年9月20日・教育委員会)8人出席 出された御意見等
- (2) 第25回静岡県図書館大会(同11月6日・静岡市「グランシップ」)全体参加者52人
(協議会参加者4人・図書館職員21人・図書館活動グループ等27人)
静岡県図書館協会表彰：掛川市立西中学校・和久田雅之氏・石野弓子氏
対談：谷川俊太郎氏(詩人)・江頭路子氏(絵本作家・イラストレーター)
「えほんのちから、ことばのちから」

分科会

- (3) 掛川教育の日(同11月18日・掛川市文化会館シオーネ)
「世界一短いメッセージ」表彰他
基調講演：熊倉功夫氏「お茶と食べ物ー日本人のくらしぶり」
- (4) 第3回協議会(先進地視察：同11月14日・愛知県)7人出席
・豊橋市大清水図書館
・田原市中央図書館
・田原市渥美図書館
- (5) 市民ワークショップ(1月28日)(全体：28人)

事務局：資料により報告を行った。

6 報告事項

- (1) かけがわ図書館フェスティバル2017の開催状況
- (2) 図書館関連事業・報道等(平成29年10月以降)
- (3) 掛川市立図書館利用状況(平成30年1月まで)
- (4) 行政改革審議会
- (5) 平成30年度図書館カレンダー

事務局：資料により報告を行った。

7 連絡事項

8 その他

9 閉会